

社会科学習指導案

《研究テーマ》

わたしたちの「塩崎」について、
自分の思いや考えを表現したくなる社会科学習のあり方
—視聴覚資料の効果的な活用—



日時：平成22年10月29日(金) 第2校時(9:45~10:30)

单元名：『火事になったら』

指導者：北信教育事務所 指導主事 桜井 孝 先生

授業者：3年東組(男子11名 女子16名 計27名)

担任 洞出 直美 教諭

長野市立塩崎小学校

I 研究テーマ

わたしたちの「塩崎」について、自分の思いや考えを表現したくなる社会科学学習のあり方
—視聴覚資料の効果的な活用—

II テーマ設定の理由

1 塩崎小学校の学校教育目標と全校研究テーマ

| | |
|--------|---|
| 学校教育目標 | —ふるさと「塩崎」の心をたずね自らひらく子— |
| 具体目標 | ・進んで学びながら基礎基本が身につく子 ・伝えたいことをはっきり発表できる子 ・友を思いやり、相手の気持ちを考えて行動できる子 ・体をきたえ、健康な体作りのできる子 |

本校の教育目標では、学校の特色を大事にしながら、子どもたちに豊かな学力をつけていくことが掲げられている。学校教育目標の具現にあたり、「ふるさと塩崎を体験的・体感的に学ぶ」「課題をもって意欲的に学ぶための授業改善」が大切であると考え。また、この教育目標の「自らひらく」ということは、子どもが自主的・自発的に活動し、自己実現に向かう姿を願うものである。

しかし、本校の子どもたちの実態から、上記のような姿が実現しているといえない部分もある。与えられた学習課題にまじめに取り組もうとするが、教師の指示を待っている傾向が強いように見える。自ら課題を見つけ、解決に向かって突き進む力や、できた喜びを感じて、さらに次のステップへ進もうとする意欲が弱いのではないだろうか。このような実態が、子どもたちのこれまでの学びの過程で身につけてきたことであるならば、教師の授業づくりにおいて、子どもたち自らが学びをつくりだしていく学習を十分に経験させてこなかったことにも原因があると考えられる。

そこで、今年度の研究テーマを次のように設定した。

平成22年度研究テーマ

「自ら学ぶ力を育てる学習指導」—子どもの学びの道筋を大切にした学習のあり方—

教育課程の積極的な創造にあたり、基礎・基本の定着を図りつつ、子どもの実態をとらえながら、学ぶ喜びを実感できるような学習について研究を進める。わかる授業であり、主体的に活動できる学習を具現化していくために、重点研究会を設け、授業研究を行いながら、よりよい学習指導のあり方を探っていく。

2 大会テーマ（「広い視野をもち、新しい文化を築く心豊かな人間の育成を目指して」～教育メディアの効果的な活用を通して～）のとらえ

自分たちの住んでいる土地について、そのよさを自覚することは難しい。そこでの生活が日常になっていることによって、目の前にあるものやことが見えなくなってしまうことがあるからだ。

本校児童にとって「塩崎」という地区のよさは、なんとなく感じてはいるものの、まだまだ意識できるレベルに達していないと考える。このよさに気づくのは、他の地域で生活をして、比較ができるようになってからではないだろうか。だとすると、現在塩崎に暮らす子どもたちに必要なことは、地域と思い切りかわり、その場所や自分の行為について深く思いをめぐらせることではないかと考える。体験と自分の思いが、いつか自分の過ごした「塩崎」を見つめたときに、そのよさに気づくための重要な要素となるのではないだろうか。

大会テーマの「広い視野をもち」を実現するためには、さまざまな教育活動を通して、十分に素材とかかわり、自分の思いをもち、積み重ねていくことが大切なのではないかと考える。その過程の中で、視聴覚機器を用いた学習が思いを深めるためのツールとして活用できるのではないだろうか。本校児童の課題の一つである「自己表現力」について、機器的に恵まれた環境（長野市の視聴覚機器の整備、フューチャースクール推進事業実施校）にある現在、これらを用いて力をつけていくことが可能ではないかと考える。

3 社会科研究テーマについて

3, 4年生の社会科の目標では、地域について理解すると共に、地域社会の一員としての自覚をもつ、地域社会に対する誇りと愛情を育てる等が挙げられている。これらについては上記2で述べたように、地域と深くかかわり、自分の思いをもつことが重要であると考えられる。

また、学校教育目標の具体目標として挙げられている「伝えたいことをはっきり発表できる」について、発表するためには自分の思いをもつこと、思いを表現していくことが大切ではないかと考えた。ここで言う「表現」を、授業中の発言からもう一步広げて考えてみたい。

子どもたちは学習の対象となるものやこと、人に触れて、自分なりの思いをもつ。また、それらに触れたり、友だちの思いに触れたりしながら自分なりの考えが浮かんでくる。しかしそれらはまだ漠然としたものであり、自ら表現したいと思うものにならないことが多い。これを「表現したい」という気持ちに高めるためには、学習場面において何らかの手立てが必要なのではないかと考えた。また、表現したくなった「自分の思い」や「自分の考え」は、発言という形だけでなく、授業中のつぶやきや文章や体の動きなど、さまざまな形となってあらわれてくるのではないだろうか。

そこで本研究では、自分たちの住んでいる地域「塩崎」を対象とし、子どもたちが自分の思いや考えを表現しようとするためには、どのようなプロセスが必要であるかを探るものとする。

III 研究の概要 - 『3東 塩崎たんけんたい』の授業から見てきたこと-

1 学習対象へのかかわり方

『3東 塩崎たんけんたい』では、学区を3つのブロックに分け、①実際にその地区まで行き、班ごとに探検する（総合的な学習の時間の活動も合わせて、数回探検した地区もある）②探検で見つけたことを出し合い、マップにまとめる③「お気に入りの一枚（の写真）」を選び、紹介しあいながら地区の特徴をまとめる という流れを3回繰り返した。

長谷・越方面を探検した際に、A児は竹林で竹の子を見つけた。地主さんに許可をもらい、竹の子採りに夢中になったA児。A児の班にとって、長谷・越地区＝竹の子という鮮明な思い出ができた。2度目の探検では、A児の案内で、他の班の子たちも竹の子の場所に行って竹の子探しをしていた。

まとめの学習では、A児は当然のように竹の子の写真を「お気に入りの一枚」として選び、班の友だちと語り合っていた。選んだ理由は「他の地区には竹の子がなかったから」とした。時間の最後には、この地区の特徴として「坂や山がいっぱいある」と記入していた。

A児にとって、長谷・越地区探検の思い出は、竹の子の思い出といってもいいくらい竹の子と深くかかわることができていた。こうした体験から、最後には友だちの発表と合わせて「山裾に広がっている地域」という地区の特徴に気づくことができたと言えるだろう。ただ、最初に出会った「地主のおじさん」ともっと深くかかわることができたら、さらに竹の子を通して長谷・越地区を感じることができたのではないだろうか。人とかかわるチャンスを逃してしまったことが悔やまれる。

子どもたちが学習の中で自分の思いや考えを「表現したくなる」時、対象となるものやことに自分の思いが深まっていくことが重要であると考えられる。A児の姿から、以下の要素が重要なのではないかと考える。

○対象となるものやことに

- ・ 無意識のまま、繰り返しかかわる
- ・ 前との比較をしながら、その変化や違いをみつけようとしてかかわる
- ・ 今までと違う新しい発見を求めて、探しながらかかわる
- ・ 対象に関係する人とかかわる

2 体験の共有・語り合い

班ごとに相談しながら、自分の選んだ写真に説明や出来事を記入する場面で

B 児は「お気に入りの一枚」として、坂の上から他の地区を俯瞰した写真を選んだが、何を写っていていいか悩み、なかなか書き始められなかった。同じ班で同様の写真を選んでいた C 児と写真を見ながら相談したり、他の班の D 児が来て相談したりして、説明の部分に記入し始めた。選んだ理由として、他の地区では見られない景色だから、と書いた。

活動の終盤で教師が「B さん、すごい。四之宮には坂がないからこの景色は見られなかったんだよね。」と声掛けをした。発表には消極的だったが、同じような写真を選んだ友だちの発表に、うなずきながら聞く姿があった。

B 児の姿から、自分の思いや考えを具体的に表現できにくい子どもにとって、共通の体験をしている友だち（C 児・D 児）との相談が有効であることが示されている。この事例のように、表現することが具体的なものでなくても、互いに思い出を振り返り語り合う場が、自分の思いをより明確にしていくうえで大切なものとなるだろう。このような場を設定するうえで、以下の要素が重要であると考えられる。



共通の体験をした子どもたちが、互いに語り合える場として

- ・ お互いの体験を、資料をもとにしながら自由に語り合える
- ・ 一緒に活動した子同士、同じテーマの子同士などのグルーピング
- ・ 全体発表やグループ内で、お互いに聞きあい、自分の表現したものを確かめる

3 発表のツールとして機器を利用する

自分の選んだ写真を液晶テレビに写し、紹介する場面

E 児が選んだ古井戸の写真が画面に映し出される。

F 児「ああ、これ知ってる。壊れてるんだよね。」

E 児「〇〇の近くで発見しました。中には水が入っていました。この井戸はもう使えません。」

F 児は E 児が発表するより先に画像に反応した。この発表は「自分の選んだ写真」を提示する方法をとったため、説明が苦手な子、文章として書ききれなかった子も発表しやすかった。

この写真には、撮影した子の意図があり、それを自分の一枚として選んだ思いが含まれている。写真を提示することで、発表者の思いが表現されているといってもいいだろう。また、共通の体験をしている子（F 児）は、その写真を選んだ E 児に共感し、自分の体験を思い起こすきっかけとなっている。また、E 児にとっても、共感してくれた友だちがいたことは、自分の思いを語るうえで、心の支えとなっているのではないだろうか。



発表のツールとしての機器利用

- ・ デジタルカメラ等で、子どもたちが自ら写真を撮り、自分で選んで利用する
 - ・ 液晶テレビや電子黒板等を使い、発表の聞き手にも伝わりやすくする
- 画像自体が持つ説得力を有効活用し、次の課題やまとめにつなげていく

このような機器の利用は、これから活用予定のフューチャースクール事業の機器により、より有効な活用方法が考えられるかもしれない。

IV 研究の仮説

[塩崎小学校の子どもたちの姿]

- 明確な課題に対してまじめに取り組もうとするが、自ら進んで課題を追究していこうとする力の弱い子
- 自分の思いや考えに自信がなく、表現したいという意欲が低い子



[社会科学習における、学びの手立て]

- 1 対象となるものやことに、
繰り返しかかわる
前との比較をしながら、その変化や違いをみつけようとしてかかわる
今までと違う新しい発見を求めて、探しながらかかわる
対象に関係する人とかかわる
- 2 共通の体験をした子どもたちが、互いに語り合える場として
お互いの体験を、資料をもとにしながら自由に語り合える設定をする
一緒に活動した子同士、同じテーマの子同士などのグルーピング
全体発表やグループ内で、お互いに聞きあい、自分の表現したものを確かめる
- 3 発表のツールとしての視聴覚機器活用
自ら調べ、撮影し、選んだ画像を使って発表する
液晶テレビや電子黒板等を使い、発表の聞き手にも伝わりやすくする
画像自体が持つ説得力を有効活用し、次の課題やまとめにつなげていく



[願う子どもの姿]

- 自分の思いや考えを伝えたくなり、自己表現への意欲が高まる。
- 提示・発表された資料をもとに、自ら課題を見つけ、友だちとかかわりながら、進んで学ぶことができる。

V 学習指導案

1 単元名 「火事になったら」

2 単元設定の理由

三年東組は、互いに高め合う学級集団に成長してきている。音楽会では、全員分のお守りを作って皆を励ます子や、うまく演奏のできない子に付き合っ一緒に練習する子など、みんなで心をひとつにして音楽会に向かっていった。授業においても、割り算が苦手な子に対して一緒に練習している姿や、協力して音読リレーを成功させようとする姿が多く見られる。

しかし、個々に目を向けてみると、周りを気にしすぎて自分の考えを言えなかったり、友だちの意見に合わせてしまったりする子もいる。そこで、3年生になって始まった社会科の学習では、一人ひとりに発表意欲をもたせるために、何度も探検に行っているいろいろな発見をさせたり、グループ活動を取り入れ、共通体験をさせたりしてきた。そうした体験を積むことで、町探検で見つけた自分の発見を、思いをこめてワークシートに書くことができるようになってきた。しかし、まだ、自信がもてなかったり、自分の思いをどう伝えたらいいのかわからなかったりするなど、進んで発表できない子の姿も見られる。

そこで本単元でも、発表意欲をもたせるために繰り返し素材にふれて思いを深めていけるよう、

長野市中央消防署だけでなく本校の地域にある分署に何度か見学をすることを考えた。主な仕事内容やはたらく人について学んだあと、地域にある分署ではどういった仕事が行われているのか、より身近な人を通して知る。一度の見学では理解しきれなかったことや、気づかなかったことを学級全体で明確にし、分署の人に聞くという共通の体験を通して、はたらく人の思いを共有・共感し、自分たちは、自分たちの地域は身近な人によって守られていることを理解し、さらには発表意欲をもつことができるのではないかと考える。消防署のはたらきだけでなく身近な地区の火災に対する備えについて調べることを通して、人だけでなく整えられた設備の中で自分たちの暮らしが守られていることも学んでいきたい。そして、タブレット PC を自分の発表やまとめの道具として使い、自分の思いの伝え方を学ぶことで、進んで発表できる子どもたちの姿を期待することができるだろう。

この流れの中で、緊急で動く際には中心となる組織があり、司令によって動いているなどの組織・施設の仕組みを学ぶ。さらには、身近な地区の火災に対する備えを知り、人や設備によって守られた暮らしをしていることにも目を向けてほしい。また、出会った消防士の人の大きな愛情から、自分たちが守られていることを感じ、地域の一員としての自覚をもって生活してほしいと願う。

発表意欲を繰り返し素材とふれることでもった子どもたちが、視聴覚機器を用いるなどの思いの伝え方を学び、調べてきたことや自分の思いを進んで発信できる姿の育ちも願って、本単元を設定する。

3 単元の目標

- ・地域の災害から人々の安全を守るために働く人々の仕事や、緊急時の連携の仕組みを理解する。
- ・地域の消防署を見学し、働く人の話を聞いたり、地域の防災施設を調べたりして、安全を守るための仕事の進め方や工夫、努力についてわかりやすくまとめ、表現する。
- ・タブレット PC を使って写真を撮ったりメモをとったりしながら、考えたり発表したりするツールとして活用できる。

4 単元展開案

| 学 習 問 題 | 学 習 活 動 | ・指導, ◇評価, ◎視聴覚機器 | 時数 |
|----------------------|--|---|----|
| 1 学校が火事になったらどうするのだろう | <ul style="list-style-type: none"> ・教科書の火事のイラストを見て、消防や警察の働きについて気づいたことや疑問点を出し合う。 ・学校の地図に防災設備を書きこむ。 ・学校が火事になったらどうなるのかを考え、消防署への疑問をまとめる。 <ul style="list-style-type: none"> ・何分できてくれるか ・消防車にはどんな種類があるのか ・いつでも来てくれるのか ・避難訓練の様子を思い出し、消防署の人が来てくれていることを確かめる。 | <ul style="list-style-type: none"> ・だれが何をしているか火はどうなっているかなど観点を示して考えさせる。 ・消火器, 消火栓, 防火扉 非常報知器, などに気づかせる。 ◎デジカメ利用。 ◇意欲的に防火設備を探しているか。 ◇疑問をまとめ、聞いてみたいことを考えたか。 | 1 |

| | | | |
|--------------------------------|--|---|-------------|
| 2 塩崎分署に聞きに行こう | <ul style="list-style-type: none"> ・まとめた疑問を持って消防署へ見学に行く ・車両や施設を見学したり，消防士の話を聞いたりして，疑問を解決する。 | <ul style="list-style-type: none"> ・指令は中央消防署から入ってくることを話してもらうようお願いしておく。 ・見学のマナーを考えさせておく。 ・聞いてきたことをまとめ，中央消防署との連携に意識を向けさせる。 <p>◎タブレットPC持参。写真を撮ったりメモをしたりする。</p> <p>◇熱心に話を聞いたり，気になることを写真に撮ったりしているか。</p> | 2 |
| 3 中央消防署に見学に行こう（社会見学） | <ul style="list-style-type: none"> ・見学に行く前に聞きたいこと，調べたいことなどの視点をまとめておく。 <ul style="list-style-type: none"> ・早く現場に到着する工夫 ・119を受けたときの司令室と消防署員の様子 ・はしご車など分署にない消防車の特徴 ・働いている人の数 ・火事の予防 ・消防署員の仕事，訓練など | <p>◎タブレットPC持参</p> <ul style="list-style-type: none"> ・視点に沿って見学する。 ・聞きたいことがあれば質問してよいことを伝える。 ・マナーを守って見学したり，わかったことをメモしたりすることに気をつけさせる。 <p>◇視点に沿って見学し，PCを活用してメモをとっているか。</p> | 2 |
| 4 消防署の工夫や努力，働いている人の思いを考え，まとめよう | <ul style="list-style-type: none"> ・メモしたことを写真の説明欄に書き出す。 ・写真とメモを整理して板書しているとき，消防署の工夫や努力を考える。 <ul style="list-style-type: none"> ・119番通報後の司令室 ・早く到着する工夫 ・市内監視 火事の予防 ・施設，設備，人員 | <ul style="list-style-type: none"> ・消防のシステムや消防署の工夫について整理しながらまとめる。 <p>◎メモをPCで確認</p> <p>◇PCを活用しながら見学のまとめをしているか。</p> | 2 |
| 5 学校のまわりの消防施設をさがそう | <ul style="list-style-type: none"> ・学校の近くをグループごとに探検し，消火栓や防火水槽などを探す。 ・グループごとに情報を紹介しあって，クラス全体で消防マップを作る。 ・消防士の話を聞いて，安全に暮らせる町作りが行われていることを知る。 | <p>◎撮ってきた写真はメモは電子黒板に表示していく。</p> <p>◎あらかじめインタビューしておいた消防士の話をPCで流す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・消火栓や防火水槽が町中に点在していることがわかるようにまとめていく。 <p>◇町には消火のための施設や設備があることがわかる。</p> | 3 本時 |

5 本時案

(1) 主眼

塩崎分署と中央消防署の見学から学んだことをまとめ，自分たちの身近な地域ではどういった備えがあるかを調べた子どもたちが，自分の調べたことを発表し，それらをまとめた地図から設備の設置などについて考えることを通して，安全なくらしへの関心を高め火災に対する備えを知る。

(2) 本時の位置（全10時中第10時）

(3) 指導上の留意点

- ・本時で扱うタブレット PC のソフトについては事前に指導しておき、機器の起動に時間がかからないようにしておく。

(4) 展開

| | 学習活動 | 予想される児童の反応 | 指導・評価 | 時間 | 資料 |
|-----|--------------------------------------|---|--|-------------|--|
| 導入 | 1 本時におこなうことを確認する。 | ・火事になったときの学校のまわりにある備えをみんなに紹介しよう。 | ・消防署のまとめをふりかえることができるように教室環境を整えておく。 | 2 | 消防署見学のまとめ |
| 展開 | 2 タブレット PC を使って調べてきたことを紹介する。 | ・これは消火栓です。四ノ宮公園の近くで撮りました。 ・消火器はアパートの近くにたくさんありました。 ・防火水槽のある場所には看板があって分かりやすいようになっていました。 | ・タブレット PC で調べてきたことをすぐ紹介できるように準備しておく。 ・紹介した写真を全体地図にまとめていく。 | 13 | 各自調べた地域の防火設備についての写真 学校のまわりの全体地図 |
| | 3 紹介されたものを見て特徴を考え、学校のまわりの防火設備について知る。 | <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 5px;">学習問題 地図を見て気づいたことを発表しよう。</div> ・どの家で火事になってもいのように消火栓は家の前にあるんじゃないかな。 ・防火水槽は消防車が入ってこられないところにあるんだと思うな。 ・道路の空いている、邪魔にならないところに消火栓は置かれているんだよ。 ・やっぱり消火栓は考えられた場所にあるんだ。 | ・全体地図を見ながら気づいたことをあげ、火災の備えについての特徴を考えていく。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 2px; margin-bottom: 5px;">火災に対する備えを調べ、発表できたか。</div> ・どのように火災に対する設備が配置されているのかを聞いたインタビュー映像を流す。 | 15 | 消防士さんのインタビュー映像 |
| まとめ | 4 本時で分かったことをまとめる。 | ・自分の家のまわりもきっと消火栓があったり、防火水槽があったりして守られていると思う。 ・いろんなところで守られていることを知った。 | ・分かったことをワークシートにまとめる。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 2px;">備えについて分かり、守られていることを知れたか。</div> | 5 10 | |

(5) 実証の観点

- ①タブレット PC や電子黒板を用いて、各自が調べてきた「四之宮地区の防火設備」を発表させたことは、子どもたちが自ら課題を見つけ、防火設備の配置の特徴を追究する姿につながっていったか。
- ②同じ地区を対象とし、防火設備を探すという共通の体験を基にした話し合いの場面は、自分の思いや考えを伝え合う場として有効であったか。

6 教材研究

本時にかかわる視聴覚機材とその活用方法

(1) フューチャースクール推進事業について

ICT を使った「協働教育」を推進するため、ICT 機器を使ったネットワーク環境を構築し、学校現場における情報通信技術面を中心とした課題を抽出・分析するための実証授業を行う。

[調査研究の概要]

全国2ブロック10校の公立小学校を対象に、協働教育プラットフォーム（教育クラウド）を核とした ICT 環境の構築により、デジタル教材（教科書）、ポータルサイト、ICT サポート等を一元的に提供するとともに、タブレット PC（全児童1人1台）やインタラクティブ・ホワイト・ボード（全普通教室1台）等の ICT 機器を用いた授業を実践し、「協働教育」の実現に必要な技術的条件やその効果等を検証する。調査研究の結果については、ガイドライン（手引書）をしてとりまとめ、フューチャースクールの全国展開を計画的に推進。

○ICT を利活用した協働教育の実証に必要な物品

| 整備機器等 | 整備対象/条件 | 機能 |
|-------------------------|----------------|--|
| タブレット PC | 全児童，全学級担任に1台ずつ | <ul style="list-style-type: none"> ・タッチパネルによる入力 ・無線 LAN による通信 ・文字や図表，デジタル教材を表示（判読可能な画面サイズ） ・協働教育アプリケーション，デジタル教材の動作 ・日本語対応 ・児童利用に適した大きさ，重量，対衝撃性 ・日本国内で販売するための安全基準，技術基準をクリア |
| インタラクティブ・ホワイト・ボード (IWB) | 全普通教室に配備 | <ul style="list-style-type: none"> ・指やスタイラスペン等の専用器具を使用しなくても操作可能 ・デジタル教材等の教室での表示（相応の大きさ，解像度） ・機器の操作履歴等のログ収集 ・協働教育アプリケーション，デジタル教材の動作 |
| 無線 LAN 環境 | | <ul style="list-style-type: none"> ・校舎内外での利用 ・標準的な無線方法（IEEE802.11b/g/n 方式等）に対応 ・設定情報の一元管理 ・セキュリティ（不正アクセス，情報漏洩，コンピュータウイルス等）への対応 ・トラフィック集中等に配慮した容量（安定した通信確保） |
| 協働教育プラットフォーム | | <ul style="list-style-type: none"> ・デジタル教材等の共同利用や協働教育の実装に係る情報等の共有 ・ポータルサイトとして，メーリングリスト，スケジュール管理機能を具備したコミュニケーションサイトとしての共有機能の提供 ・保護者の意見，授業評価アンケートの収集・集計等による学校評価支援 ・情報セキュリティを考慮した接続方法や多数のアクセス制御（各自治体，教育委員会，学校等のセキュリティポリシーに配慮） ・学校の ICT 環境（整備状況）に依らず，学校からの利用（接続）を前提 |

※出典：総務省「ICT を活用した協働教育推進のための研究会」配布資料より

本校では8, 9月に配線・設置工事を行い, 職員研修や児童への操作研修を経て, 12月から1月を目途に各機器を利用した協働教育の実践を行う計画である。今回の視放研公開授業にあたり, 授業学級の3年東組は他クラスに先駆けて機器の利用を進めてきたが, 担任・児童共に十分な利活用ができるだけの技能を習得していない点をご容赦いただきたい。



(2) デジタルカメラの利用

本校には17台のデジタルカメラがあり, パソコン教室に保管されている。今年度は3・4年生の社会見学でグループごとにデジタルカメラを1台ずつ持たせ, 見学場所で子どもたちが自ら記録写真を撮れるようにした。教師が代表で撮影した写真とは違った観点から撮影されているものも多くあり, 事後のまとめ学習では, 例年とは違った写真が用いられていた。

上記(1)にあるタブレットPCには, 本体にカメラが内蔵されている。これにより一人1台のカメラを持たせることが可能になった。班での利用では撮影者の偏りがあったが, これにより解消されると期待している。